

# モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



モニタリングサイト1000



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2021年度 冬期概要

## 2021年度冬期の結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2021年度冬期（2021年12月-2022年2月）の概要をお知らせします。

### 個体数は前年より減少

2021年度冬期調査は、2021年12月1日から2022年2月28日までの期間に全国100か所のサイト（暫定値）で調査を実施しました（前年度冬期は104サイト）。

**最大個体数**（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の集計は、シギ・チドリ類43種40,865羽、そのうち希少種では、ツクシガモ6,691羽、ヘラサギ92羽、クロツラヘラサギ540羽、ズグロカモメ6,193羽が記録されました。一斉調査（2022年1月16日を基準日とした前後1週間内の調査）へは、85サイトが参加し（前年度冬期は83サイト）、シギ・チドリ類37種17,893羽が記録され、そのうち希少種では、ツクシガモ1,124羽、ヘラサギ31羽、クロツラヘラサギ174羽、ズグロカモメ889羽が記録されました。

1999年度以降の冬期調査における「全サイトの最大個体数合計（全サイト）」と「調査が継続されているサイトのみの最大個体数合計（継続サイト）」の経年変化を図1に示しました。全サイトの最大個体数合計は、前年度冬期と比べ-15.1%減少し、継続サイト（35サイト）では前年度冬期と比べて-8.2%の減少でした。また、冬期調査では、ハマシギ（68.0%）、シロチドリ（7.7%）、ダイゼン（7.5%）、ムナグロ（4.2%）、ミユビシギ

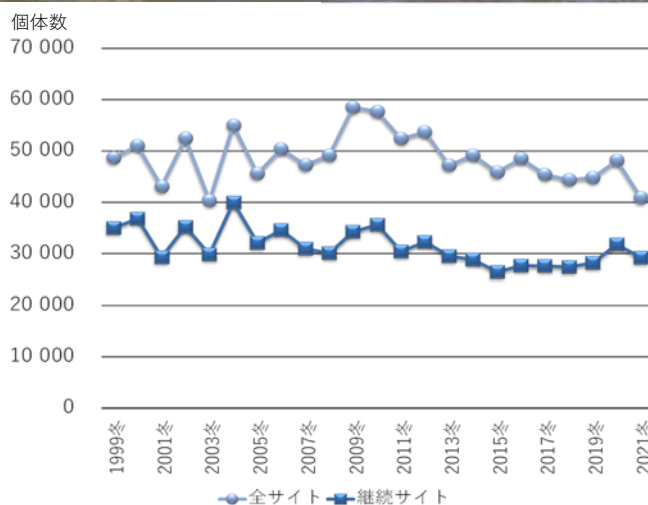


図1. 冬期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の経年変化。  
(1999年から2021年の継続サイトN=35)

（2.0%）が優占していました（図2）。ハマシギが約70%を占めていたことや、優占する上位5種は前年と比べ変化はありませんでしたが、ミユビシギの割合が小さくなり、ムナグロの割合が大きくなりました。また、個体

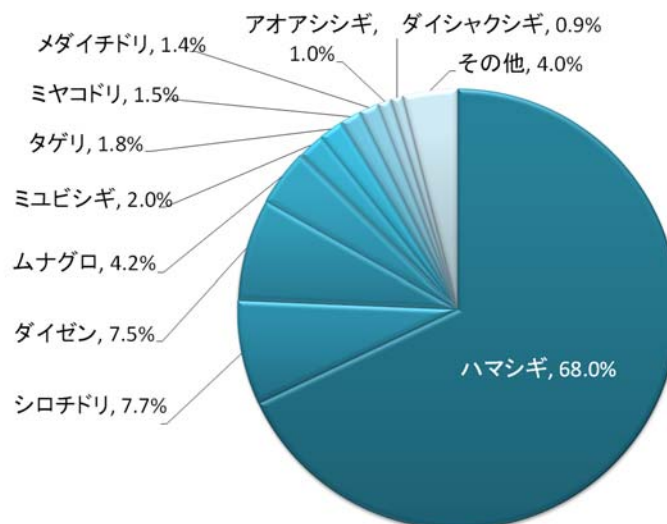


図2. 2021年度冬期調査の種構成

数上位種の傾向では、ハマシギは3年間続いた増加が減少に転じ、増加傾向が鈍化しました。シロチドリは継続して減少傾向にあり、今年度も最小値を更新しました。ダイゼンは上昇傾向が鈍化し、昨年度に続き減少していました。ミュビシギ、タゲリは減少傾向が継続し、ムナグロは増加傾向が継続していました(図は省略)。

### 最も個体数の多いサイトは全体と傾向が異なる

全サイトのシギ・チドリ類の最大個体数合計は、大授搦(だいじゅがらみ:佐賀県)、白川河口(熊本県)、中津干潟(大分県)、泡瀬干潟(沖縄県)、三番瀬(千葉県)の順に多く記録されました。上位10サイト中7サイトが九州地方のサイトであり、冬期調査で九州地方のサイトにおいて個体数が多い傾向は例年と変わりません。特に大授搦(佐賀県)サイトは、2016年～2021年の間、シギ・チドリ類の最大個体数合計の上位サイトの中でも、個体数が突出しており、さらに他のサイトと異なり減少することなく毎年約5.5%ずつ増加し

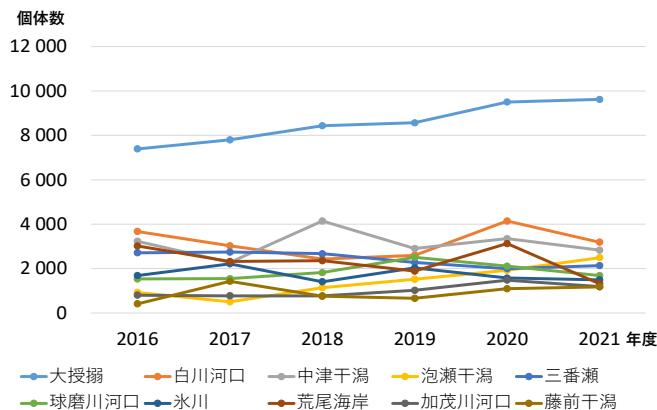


図3. 過去5年間の個体数上位10サイトにおけるシギ・チドリ類総個体数の変化

ていました(図3)。種類別にみると冬期調査で最も優占するハマシギは、全サイトの最大個体数合計では2010年頃から減少傾向が続いているのに対し、大授搦では同時期から増加していました。優占順2位のシロチドリについても、同様の傾向にあり、この2種で冬期の個体数の3/4を占めています。ただし、同3位のダイゼンのように、全サイトと増減傾向が似ている種もいました(図4)。理由はまだ不明ですが、九州地域の荒尾海岸、不知火干潟(熊本県)、博多湾東部(福岡県)のサイトは年約-5%以上の減少を示していること、種によって傾向が異なることから、特定の種類がエサ資源や生息環境を求めて近くより良い環境に移動している可能性や、群れのサイズが小さくなったサイトから、天敵を避けるため、より大きな群れが集まるサイトに集中してきているの

かもしれません。

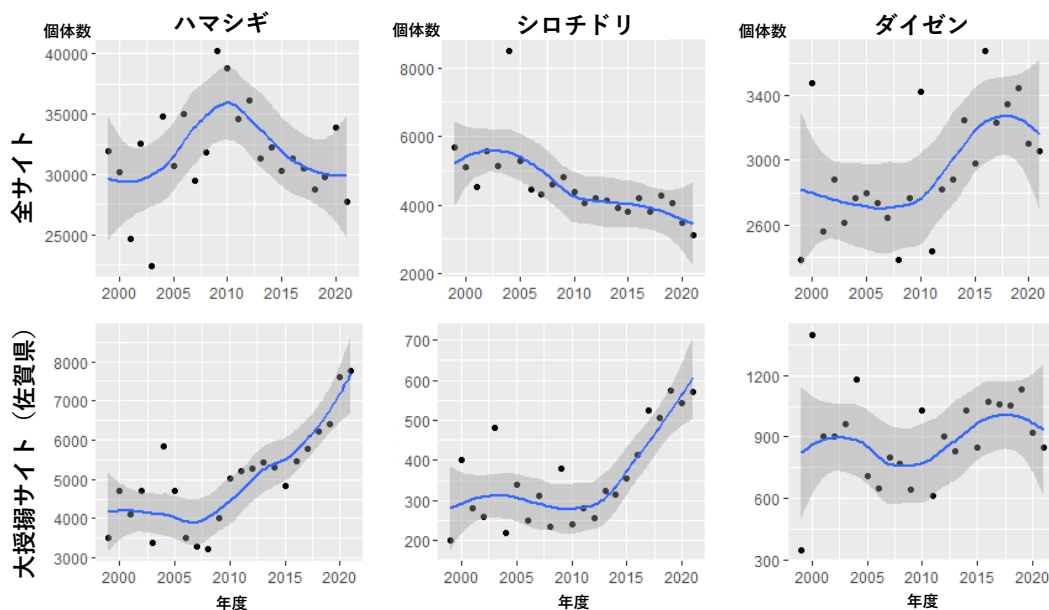


図4. 冬期調査で個体数が多い上位3種(ハマシギ、シロチドリ、ダイゼン)の1999年度から2021年度の冬期最大個体数の変化(上段:全サイト合計、下段:大授搦:だいじゅがらみ) 青い線は平滑化した線。縦軸は個体数、種によって幅が異なる。

## モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター

タイトル写真:ソリハシセイタカシギ:(三木敏史)

### 2021年度 冬期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <https://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史 電話/Fax:042-505-4044 メール: shigichi@bird-research.jp